

Dear地球民

第 36 号
2012年4月発行

編集発行 ゆがわら国際交流協会
〒259-0392 神奈川県足柄下郡湯河原町中央2-2-1
湯河原町地域政策課内 Tel.0465-63-2111 (内線) 232



Brett Allen さん

Laura Blatch さん

Stephen Grant さん



The Christmas Party by Yugawara International Exchange Association on Dec.17th, 2011

◎ポートステーブンス訪問団・クリスマス会&研修視察 P2~P3
◎2011年語学研修、国際理解講座 P4 ◎湯河原探訪ハイキング P5
◎「やっさ国際交流」その後 P6 ◎ポートステーブンス・シドニー旅行記 P7

ポートステューブンス市 教師訪問歓迎会



姉妹都市交流最初の一輪の花！

昨年12月に来湯した、St. Philips Christian Collegeの3名の先生方の中に、Laura Blatch さんの名前を見つけた時は驚きました。2002年4月のPort Stephens市中高生文化交流団20名のメンバーの一人だったからです。10年前の面影を残し、小学校の先生となって再訪してくれたことに、当時の協会会員やホストファミリーは感激しました。あの頃と同じに、ホストファミリーや子供たちに笑顔で交流してくれました。1996年に伊藤会長、高橋副会長がJohn Bartlett氏とともに蒔いた友好の種が開いた最初の一輪です。これから更にたくさんの花が開いていくことを祈っています。

ゆがわら国際交流協会会長 早藤 義則

歓迎会・クリスマス会

2011年12月17日(土) 地域福祉センターにて
午後6時30分～21時 参加者112名



セントフィリップスクリスチャンカレッジのアレンさんローラさんグラントさんの3先生が2泊3日で湯河原を訪問されました。歓迎会では、ホストファミリーの川上さん、木村さん、伊藤さん、交換留学参加者等、協会員、篠原教育長、約100余名が集まりました。湯河原町から温泉セット、協会よりやっさ祭りの「ハッピー」を贈呈、すぐに袖を通し記念撮影しました。



引き続き行われたクリスマス会ではサックス演奏や合唱等の音楽交流、キャンドルツリー点火、ピングオゲームやO×クイズ、入札チャリティーオークション等賑やかに行われました。オークション売上金は59,300円であしなが育英会に30,000円、残り29,300円をポート交流事業の積立金といたしました。

湯河原中学校、東台小学校を視察

12月19日(月)



湯河原中学校で松野校長、及び先生方と懇談後午前中の授業参観、6年生の学年集会にも参加されました。その後富田町長と中学校で会見。オーストラリアについての話に花がさきました。



午後、東台小学校に移動し、給食体験、授業参観、併設の福浦幼稚園にも訪問されました。5年生のクラスで扇を使った、はねと風のダンスを鑑賞。子供たちと打ち解けたひと時でした。最後に佐宗校長と懇談し相互に記念品贈呈され、2泊3日の湯河原滞在を終え、帰国の途につきました。

ポースティーブンスホームステイの記

今回のホームステイで新しい家族、友達、そして深い絆を作ることが出来ました。

オーストラリアに第二のお父さん、お母さん、兄弟ができ、さらにたくさんの友達を作ることが出来て、とてもうれしいです。

今回はオーストラリアのたくさんの自然とふれあって、自然の雄大さをとても強く感じました。オーストラリアの雄大な自然がオーストラリアの人達の心の優しさや思いやりを生み出し、そして、オーストラリアの人達の自然を愛する気持ちが美しい風景を守っていると思いました。

ホストファミリーの人達は僕たち一人ひとりに気をつけてくれて、本当にうれしかったです。

2011年派遣、木村峻也君



2011年9月5日～10月24日
毎月曜日全8回

語学講座



クレイグ先生のギターの弾き語りやゲーム等で楽しい授業でした。英会話愛好家の方々と知り合いになれるし、英語で話せる機会があって楽しい。旅行に役立つ会話もやってほしい等の感想がありました。



「感謝のパーティー」

二講座合同の先生を囲んで感謝のパーティーを開催しました。タイカレー、タピオカミルクティー、お菓子等で歓談。中国語クラスによる「月は我が心」、英会話クラスは「マイウェイ」「ウォンシングマチルダ」を披露しました。最後に恒例の先生に英語、中国語で「一言メッセージ」を贈りました。

湯河原町教育センターにて

午後7時～8時30分

参加者：英会話—17名

中国語会話—8名

◆ 英会話講座

クレイグ・ターナー先生

◆ 中国語会話講座

呂 曉雁 先生

呂先生は去年に続き2回目の講座で受講生が台湾や中国の方々とコミュニケーションをとりたいと引き続き勉強する方が多く、また今回はテキスト使用で更に理解し易かったです。（左の写真は孔子の[教師節]にちなんで先生に感謝しました9/26）



国際理解講座 「太極拳のパフォーマンスと体験講座」

11月18日(金)7:00pm～9:00pm

於：湯河原町民体育館 参加者45名

講師の水谷京子さんは熱海在住、平成2年より太極拳を始め、中国に研修留学後、熱海で教授されています。



最初に太極拳の話と「剣の舞」のパフォーマンスを鑑賞。先生は流れる動作の中「歴史」や「意味」解説され、その後「八式太極拳」の体験講座を行ないました。初心者向けとはいえ、手足のバランスや柔らかい動作が意外と難しく、なかなか思ったようには出来ませんが、ゆったりとした音楽に合わせ、ゆっくり動作をつないでいくうち、全身がほぐれ、体が暖まりました。

湯河原探訪ハイキング スケジュール

2011年11月23日(水)

(吉浜) 稲荷神社・最上寺→宗徳韻素鷲神社→英潮院→小道地蔵堂銀河館→吉祥院→(福浦) 了善寺→庚申塚→醍醐院→子ノ神社→(川掘) 庵寺→熊野神社→山神社→(鍛冶屋) 五郎神社→早藤会長宅でBBQ(現地解散)

毎年楽しみにしている国際交流のハイキング。今年は湯河原の神社巡りということで温故知新を求め家族で参加させていただきました。

朝9時に湯河原駅に集合。13ヶ所の神社仏閣に立ち寄りながらゆがわら、福浦、鍛冶屋の早藤会長のお宅までと全行程約8kmのスタートです。参加者は子供5人を含む30人。久しぶりにお会いする方、初対面のかたと様々ですが、歩きながら一言、二言お話しさせていただくうちに皆さんと親しくなれてしまうのがこの会の魅力です。

普段は車で生活しているせいか、見慣れた場所も歩いてみるとまったく別の景色が広がるから不思議です。秋の澄みきった空気と晴天に恵まれて足取り軽くおしゃべりにも花がさきます。内観させていただいた神社ではそれぞれに深い歴史があり、地域の方々との深い結びつきに感動しました。その中で一番きになったのは、福浦にある子ノ神社。宮司さんから伺った福浦に伝承される浦島太郎のお話しに、うーんあるかも。きっとそうかもと思ったのは私だけでしょうか？

午後は上り坂が続き、路線バスを何度もうらやましく見送ったことか。個人では諦めてしまう距離もお仲間がいることで頑張れます。そして全員が早藤さんのお宅に無事到着。おいしいバーベキューをいただきビールで乾杯。一日の疲れが達成感に変わった瞬間でした！
(古川昌子)



“ふれあい広場・産業祭”に参加

10月23日(日)、海浜公園にて商工会主催の産業祭が開催された。好天にめぐまれ人出は12,000人にもふくらみ、子供から大人まで楽しめる、ステージのイベントやコンサート、展示販売等大盛況であった。当協会も国内外親善交流のブースにて、チヂミ、ブラジルコーヒー、水餃子、ポップコーン等の販売を行い好評を博しました。又ゆがわら国際交流協会の活動展示、ハートフル募金、会員勧誘、ホストファミリー募集を行いました。(売り上げ金額 38,600円)



第16回MOA美術館・湯河原児童作品展

10月8日(土)～9日(日) 於:湯河原観光会館

ゆがわら国際交流協会賞は小学6年生の二見壮大さんが受賞されました。

やっさ国際交流 その後

第26回やっさ国際交流は2011年7月30日(土)～8月6日(土)ホームステイ事業を行ないました。7カ国21名の留学生を迎え、日本文化を学び、家族の一員として溶け込み、かけがえのない一週間を過ごしました。

留学生のその後の様子が寄せられました。

JET日本語学校の「JET通信」<66号2011年8月25日付>よりフットサル大会の様態から前列中央のキャプテンの陳逸夫さんのコメントを紹介します。蔡孟儒さん、林松佑さんのなつかしい顔も見られます

<フットサルを終えて>

～陳逸夫キャプテンのコメント～

フットサルをしたことがある人は二人しかいなかったもので、試合に出る前ちょっと心配しました。しかし大学生達が皆上手で、いろいろな戦術や奥の手を詳しく教えてくれたので、私は本当にありがたいと思っています。私たちは日本語能力試験の直後でしたが、試合前に集まって公園で練習しました。練習を通じて、以前はあまり交流がなかった人と仲良くなりました。結果としては、目標が果たせなかったけれど、皆と一緒に優勝を目指して練習したり、試合では最後まで頑張りぬいたので今回のイベントに参加して本当によかったと思います。



↑JETのチームは台湾、トルコ、モンゴル、香港、韓国の出身者に、明治大と法政大の日本人大学生7名が加わり、参加チームの中でも稀な「多国籍チーム」になりました。

JET通信より、頼仕翰さんのホームステイ体験記



頼仕翰さん

初めてのホームステイ、本当に緊張しました。ホストファミリーは湯河原の大きい寺で家族は7人でした。晩ご飯はいつもお父さんと酒をのみながら家族とおしゃべり。おじいさんは囲碁が上手で毎日やりましたが、いつも私は負けてしまいました。お母さんとお婆さんは料理が上手で、子供3人はとてもおとなしかったです。今回のホームステイは、いろいろな事をしたり、いろいろな所へ行ったり友達もたくさん作りました。湯河原の人は東京の人より優しいです。私はお父さんとお母さんの子供になることが出来て幸せでした。

新宿日本語学校の月刊SNGより、ホームステイされた、梁力元さんと王穎冬さんの作文



梁力元さん

やっさ交流の一週間、丸山ファミリーではお母さんの指導のもと、絵手紙やバターロール等作りました。家族とあちこちに行ったのも思い出します。お父さんお母さんと十国峠から富士山を見に行きましたが、雲に覆われ見えず、ちょっと残念でした。最後の日、皆は泣きながらお見送りに来ていただきました。私は泣かなかったのが冷たい人とおもわれるかもしれませんが、そうではありません。いつかきっと湯河原に帰れることを期待しています。



王穎冬さん

7月30日からの初めてのホームステイとても楽しみでした。家から湯河原まで二時間。改札を出ると、私の名前が書いてあるプラカードを見て、驚きました。8日間いろいろな場所に連れていってもらったり、森澤ファミリーの皆さんにはいろいろお世話になりました。最乗寺、小田原城、芦ノ湖。日本の歴史に触れることができ面白かったです。やっさ国際交流では色々な国の皆さんと友達になってよかったです。お別れの時はとても悲しかったです。湯河原のホームステイに参加できて、本当に良かったです。

交流その後 ポートステーブンス・シドニー旅行記 鈴木明子

昨年夏、私は主人と「家族」に会うために、オーストラリアのポートステーブンス市を訪ねました。息子の賢太が4年前、中学生派遣事業に参加し、家族としての温かいおもてなしを受けたホストファミリーのクラーク夫妻。そして一昨年、セントフィリップスクリスチャンカレッジからの湯河原派遣団のキャメロン君。息子がお世話になったお返しの気持ちでホストファミリーとなりました。彼等とは、時々メールや、季節のカードというお付き合いが続いています。彼らの温かい人柄を感じる度に、ポートへの興味と彼らに会いたいという気持ちがどんどん膨らんでいきました。

そしていよいよ昨年夏、6泊8日ポートとシドニーに訪問することにしました。シドニーに降り立ち、そのままレンタカーで約3時間のドライブ。ルートマップはインターネットからのプリントアウトのみ。英会話が人並み以下の私達にとって、これは大冒険でした。シドニー空港から市外に抜け、気持ちよく、順調なドライブ・と言いたいところですが、昼食休憩で車を離れている間に、当て逃げされてしまうというアクシデント。しかし、親切な人はいるものです。車のワイパーに「私達は当て逃げするところを目撃した。電話して」というメモが挟んでありました。取り敢えず、ポートへの道を急ぎ、到着。

すぐにキャメロンに電話をし、家に何うことになりました。約1年ぶりの再会に、ハグで出迎えてくれたキャメロン。パパもママもお姉ちゃんのセーラも歓迎してくれました。キャメロンが運転する車で、家の周辺、釣りをする場所、おじいちゃんの家、アルバイトしているスーパー等を案内してくれました。キャメロンの部屋には、私達がプレゼントしたシマノのリールがついている釣竿があり、大事に使っていただける様子が分りました。お兄ちゃんのネイサンも駆けつけてくれました。夕食の時、パパが「キャメロンは明日学校を休ませる。明子達と一緒に過ごさせて欲しい」と言ってくれました(うるうる)。気持ちだけ受け取ることにして、今のこの時間を楽しもうと提案しました。ママに「湯河原でキャメロンは私達の息子になった。ポートを訪れて、私達はみんな家族になった」と伝えると、ママとセーラはうるうる。勿論、私もまたまたうるうる。そして、私達がシドニーから発つ時に、空港まで見送りに来ると言ってくれました。

が、これまた気持ちだけいただきました。キャメロンが素晴らしいのは、この家族が素晴らしいからだとしみじみ実感しました。

翌日は、クラーク家への訪問です。ポートの姉妹都市委員会のテッドがホテルまで迎えに来てくれました。クラーク夫妻と友達のジョアンナテッドと夕食を共にしました。「賢太は元気？会いたいわ」「いつも素敵なカードをありがとう」等々温かい心遣いとおもてなしを受け、賢太が「湯河原に帰りたくなかった」と言った気持ちが理解できました。3年前の賢太の滞在中のエピソードなどとても大切にしてくれていたことに改めて感謝しました。ここでも何祖もうるうるしたことでしょう。

ステーブンス家と、クラーク家の皆さんとも再会を約束しました。また会えることを楽しみに、この縁を大切にしていきたいと思っています。

ポートを離れる前に、当て逃げを目撃して、メモまで残してくれた親切に応えるために、ジーナ(メモの主)に電話しました。私が日本からの旅行者だと話すと、彼女はびっくりし、分かり易く話してくれました(笑)。

シドニーに移動してからは、観光を楽しみました。ハーバーブリッジクライムやブルーマウンテンズでは、素晴らしい眺望に感動しました。洞窟のような、今は使われていないトンネルに、土ボタルも見に行きました。フィッシュマーケットでは、キャメロンの家の近所で養殖された牡蠣を堪能しました。

今までに何度か海外旅行は経験していましたが、旅行の目的《人に会う》というのは初めてでした。コミュニケーションに必要なもの、それは相手に伝えようとする気持ち、相手を理解しようとする気持ち！この気持ち、きっと言葉の能力以上に大切なんだと実感した旅行でした。私達の小さな国際交流の体験は、とても大きな思い出として、残っています。ポートで出会ったみんなに感謝します。

ポートは湯河原の姉妹都市です。とても素敵な美しい町です。みなさん、是非、ポートに行ってみてください。きっと素晴らしい体験ができますよ。朝起きて窓を開けると聞こえてきた、ワライカワセミの鳴き声が懐かしく思い出されます。キャメロンは「うるさすぎる」と言っていました(笑)。



当協会の最年長(91歳)役員である、石井立夫さんより投稿いただきました。

「今の時期」

今の美しい時期は毎年訪れる。老年の私にとっては願ってもない時期なのだ。マンションの庭先に咲く老木は、必ず時期がくればやがて満開の時期がくるだろう。それを待っている私は毎日のように、その日を確かめにゆくのが日課になっている。

この自然の時期(トキ)を、必ず咲かしてくれる老木に感謝の気持ちを伝え、人生の日々過ごしているのだ。

この生き方に自然の姿を映しながら日々を過ごしているのが、私の生活スタイルなのだ。自分の来しかたを振り返る日もあるが、出来る限り避けて、残りの日々を如何に健康であり続けるかを日々願いながら過ごす日々が多い。

さりとして自分の過去を無視することは出来ないのは事実なのだが、自分なりの覚えとして、去りにし日々を、じっとして忘れないようにおれば良いのだ。

ある友人は酒におぼれ、むなしい自分の過去を忘れようとして、妻にあたり、子供を泣かせ、勤め先には迷惑をかけ、若くして何もかも失って自分すらも失ってしまった。その後、残されたご家族のことは聞いていない。

とかく自分のことは、なるべく隠しているのが普通の姿だが、(誰も聞く人はいない)やたらに自分を吹聴したがるのは、一部、政治家のスタイルだが、特殊な例として・・・このような生活スタイルを、どうか健やかに、健康で過ごせる日々を待望しながら、日々をすごしているのが、何回も願うのだが、残された人生だと思っている。

平成24年4月16日

石井立夫

2011年度 第24回 総会
平成23年5月18日(水)午7時
湯河原地域福祉センター6階

平成22年度事業報告・収支決算報告の承認、並びに平成23年度事業計画、収支予算を審議、承認された。来賓の富田町長より「国際交流協会が築いた交流によりポートステイブンス市や韓国忠州市から震災のお見舞いメッセージや義援金が寄せられた」との報告。早藤会長も留学生からのお見舞いメールも多数寄せられていることに今年は湯河原から元気を発信して行きましよう



地球市民フェスタに出展 2月26日(日)

例年小田原で開催されている、「地球市民フェスタ」も16回をむかえる。当協会も毎年協賛し、2階「美の創作室」にて資料展示、事業紹介、各国のコインや紙幣を集め、寄付するハートフル募金の協力をお願いしました。



会場の川東タウンセンターマロニエには屋外から3階まで「世界の踊り」や「世界の味ブース」、「映画上映やトークショー」、「スタンプラリー」等数々のイベントが催され、多数の国際関係団体及び市民参加により「心の国際化」を図る、相互理解を深めた。



<編集後記>「姉妹都市」と言っても「兄弟都市」と言わないのは何故?と疑問を持った。調べてみるとどうやら「都市-city」が西欧言語の女性名詞であることに由来するらしい。湯河原町では広島県三原市、富山県立山町、大韓民国忠州市、オーストラリア・ポートステイブンス市と「姉妹(親善)都市」提携をしている。

湯河原町とポートステイブンス市の友好都市事業も15年余りの月日を経て中学生文化交流をはじめ、渡航、滞在の学生のみならず、ポートよりの訪問団受け入れホスト家族、また町民も行き来し、お互いに大きな存在となってきたのは言うまでもない。震災時にはお見舞いの心遣い、遠くても近い親しい関係をこれからも末永く続くようにと思う。T.T